

家庭・学校・地域の連携中で生徒の健全育成を図る教育活動

—かすみがうら市立霞ヶ浦中学校のPTA行事に注目して—

松 婷 (SONG TING)

I. はじめに

生徒たちの生きる力は、学校の授業だけで育てるものではなく、家庭での教育の重要性は言うまでもない。近年、現代社会の急速な変動に伴う、教育の役割分担が困難になっているなどの問題が指摘されている。このような状況で、学校はさまざまな問題に対処することが困難な状況に直面している。そこで地域と学校教育がパートナーとして連携し、生徒たちの生きる力を育成することがますます重要になっている。中央教育審議会（2015）が、地域と学校が連携した地域学校協働活動という、未来を担う子どもたちの成長を支える取り組みを、積極的に推進することを主張している。

地域と学校が連携している社会教育団体のなかで、PTAがある。PTA (Parent-teacher association) とは、アメリカ合衆国（以下、アメリカ）に由来した、保護者と教師から構成される教育団体である。1952年、日本のPTAの全国団体が正式に結成された。それ以降、「PTA問題」が頻繁に取り上げられるようになった。たとえば、馬場（2018）は、PTAの活動に関して、「同じ活動を繰り返すなど運営が形式化」し、「自主性を引き出し活発な活動を行う点で困難を抱えている」と指摘する。そして、PTAの必要論・不要論に関する研究は、村山（2021）が、アンケートを分析することによって、「必要37.4%に対し不要が55.9%と過半数を上回った」と述べている。そして、不要論に強い影響を与えたとして「存在意義」「強制感」「負担感」などが指摘されている。しかし、以上の先行研究では、家庭と学校、学校と地域、地域と家庭がそれぞれ重なり合う部分で、PTAはどのような活動をしているのかが見えない。

そこで本研究は、かすみがうら市立霞ヶ浦中学校のPTA行事に焦点を当て、家庭・学校・地域の連携の中でPTA行事の実際と役割を明らかにする。研究の目的を達成するために、以下の手順により検討を進める。第一に、日本のPTAに関わる歴史の資料を整理することによって、現在まで行われているPTAの制度や内容を考察する。第二に、学校の実地調査を行い、教員と保護者へのインタビューを通して、霞ヶ浦中学校

での PTA 行事の現状を把握する。第三に、考察と調査で導出された課題を踏まえて、かすみがうら市立霞ヶ浦中学校を事例にして、家庭・学校・地域の連携の中で PTA の実際と役割を明らかにする。

II. PTA の起源・沿革

PTA (Parent-Teacher Association) は 19 世紀末のアメリカで生まれたもので、その創始者はバーニー (A. M. Birney) 夫人だと言われている。工業化と都市化が急速に進み、好況の時代を迎える一方で、子どもたちを取り巻く環境は思わしくなく、子どもたちの健全な成長を訴え、教育環境を浄化するために、1897 年 (明治 30 年) 2 月 17 日にバーニー夫人はハースト (P. A. Hearst) 夫人とともに「全米母親大会」をワシントンで開催した。この大会をきっかけに「全国母親協議会 (National Congress of Mothers)」に変更されて、毎年 1 回この種の集会在開催されるようになった。そのあと、協議会では組織の拡充を図り、父親や教師にも参加を求め、1924 年 (大正 13 年) にその名を「全国父母教師協議会 (National Congress of Parent and teachers)」と改称した。これが、今日の PTA の起源である。

日本では終戦直後の 1946 年 3 月に『アメリカ教育使節団第一次報告書』のなかで、成人教育の必要性が発表された。その報告書では、「教育委員会の教育長は、児童生徒の福祉増進および教育計画の改善のために、父母と先生の会に激励を与える義務を有する」と提言していた。ここで、PTA という言葉は直接に使っていないが、PTA の設置の目的と役割がわかる。また、同年 5 月、CI&E (Civil Information and Education Section 連合軍司令部民間情報局) から、文部省の係官に対して「PTA に関する資料」が交付された。これを受けて、1947 年 3 月には文部省社会教育局が『父母と先生の会—教育民生化の手引』というパンフレットを作成し、全国都道府県に配布した。こうして、全国の学校が PTA を組織するようになった。文部省の「父母と先生の会委員会」による「PTA 結成の手引き」が公表されてから 1 年後の 1948 年 4 月には、全国の PTA 設置状況は小・中学校とも早くも 7 割近くに達していた¹⁾。その後、1948 年 10 月 20 日に、PTA の基本法ともいべき「父母と先生の会・第一次 PTA 参考規約」を取りまとめ、PTA の目的、方針、会員、各単位 PTA での規約検討などの内容を示している。そして、この参考規約は文部省から全国に配付されていた。次下は、参考規約の一部を抜粋したものである。

「父母と先生の会」PTA 参考規約 (第一次参考規約)
(1948 年 12 月 1 日全国都道府県知事あてに送付)

第 1 章 名称

第一条 本会は〇〇学校「父母と先生の会」(PTA) と称する。

第 2 章 目的

第一条 本会は、左の諸項を目的とする。

- 一、家庭、学校及び社会における児童青少年の福祉を増進する。
- 二、家庭生活及び社会生活の水準を高め、民主社会における市民の権利と義務とに関する理解を促すために、父母に対して成人教育を盛んにする。
- 三、新しい民主的教育に対する理解を深め、これを推進する。
- 四、家庭と学校との関係を一層緊密にし、児童青少年の訓育について、父母と教員とが聡明な協力をするようにする。
- 五、父母と教員と一般社会の協力を促進して、児童青少年の心身の健全な発達をはかる。
- 六、学校の教育的環境の整備をはかる。
- 七、児童青少年の補導、保護並びに福祉に関する法律の実施につとめ、さらに新しい適正な法律をつくることに協力する。
- 八、適当な法律上の手段により、公立学校に対する、公費による適正な支持を確保することに協力する。
- 九、その地域における社会教育の振興をたすける。
- 十、国際親善につとめる。

(文部省 (1948) 「父母と先生の会」 PTA 参考規約 (第一次参考規約)」による)

このように、PTA の目的として「児童青少年の福祉を増進」「成人教育」「児童青少年の健全育成」「教育的環境の整備」などを示している。1950 年 1 月の調査によると、小学校では 93% の学校に PTA が組織され、中学校でも 89%、高校でも 81% と、全国では多くの学校に PTA が設置されていた²⁾。

以上、日本の PTA は、アメリカの GHQ (連合国軍最高司令官総司令部) と当時の文部省の指導のもとに、全国では急速に普及していたことがわかった。

戦後 PTA の展開と改善に伴い、2013 年 4 月 1 日、日本 PTA は公益財団法人に移行し、公益財団法人日本 PTA 全国協議会として全国組織の中で活躍している。それでは、以上のような PTA の政策を背景として、現在の学校では、PTA 活動はどのような形で行われているのであろうか。次章では、茨城県かすみがうら市立霞ヶ浦中学校を事例として PTA 事業を中心に注目する。

Ⅲ. 霞ヶ浦中学校における PTA 事業の概要

1. PTA 役員の構成および役員会の活動

かすみがうら市霞ヶ浦中学校は、2014 年に北中学校と南中学校が統合して開校した³⁾。総学生数は 355 名で、PTA の会員数については、1 年では 104 名で、2 年では 121 名で、3 年では 96 名で、総会員数は 321 名である⁴⁾。

また、PTA 役員の組織構成は以下の通りである。PTA 全体の運営は、運営委員を中心に行なわれるが、その世話役として個々に特定の任務を与えられているのが委員である。そして、PTA の役員とは、正副会長、書記、会計の三役のことである。それでは、PTA の役員は何をするのか、この点について霞ヶ浦中学校の教員 A にインタビューを行った結果、以下の内容が判明した。教員 A によれば、PTA 役員会の活動は主に以下のようなものである。①総会で提案する活動方針 (方案) などの作成をすること。② PTA 活動の計画や実施の内容。③学校や地域との連絡と調整すること。

このように、PTA 役員会の活動内容は3つの項目に分けられる。第一に、PTA 総会で活動の事前提案を行い、活動方案を作成することである。第二に、PTA 活動の実施計画と内容である。第三に、PTA 役員会は、学校と地域との間、関連活動の連絡や調整の役割を担っていることである。それでは、次節では霞ヶ浦中学校における PTA 事業内容とは具体的にどのようなものなのか見てみよう。

2. 令和2年度における霞ヶ浦中学校 PTA 事業内容

第1表は昨年度には霞ヶ浦中学校 PTA 事業の内容である。

第1表 令和2年度 霞ヶ浦中学校 PTA 事業

期日（曜日）	事業名
4月6日（月）	第1回 PTA 役員会及び運営委員会
5月7日（木）	PTA 総会資料配付
6月11日（木）	第2回 PTA 運営委員会
7月8日（水）	前期 PTA ・担任授業（1・2 学年 PTA） ・親子進路学習会（3 学年 PTA）
7月17日（金）	第3回 PTA 運営委員会
8月3日（月）	二・三者面談（～8月7日まで）
8月29日（土）	PTA 奉仕作業（運営委員・学校整備委員・全地区）
9月5日（土）	第7回体育祭 入場受付
9月18日（金）	市P連第2回運営委員会（下稲吉中）
10月23日（金）	合唱コンクール（学年毎）
11月16日（月）	三者面談（3年：～11月24日まで）
11月27日（木）	第4回 PTA 運営委員会
12月25日（金）	「一声」19号発行
1月26日（火）	三者面談（3年：～2月1日）
1月28日（木）	広報委員会
1月29日（金）	第5回 PTA 運営委員会
2月10日（水）	広報委員会
3月10日（水）	「一声」20号発行
3月11日（木）	第7回卒業式
3月16日（火）	第6回 PTA 運営委員会

（「霞ヶ浦中学校（2020）「第1号議案 令和2年度霞ヶ浦中学校 PTA 事業報告」により作成）

上表をみると、以下のことがわかる。第一に、学校と PTA 役員会は、定期的に PTA 運営委員会を開催する。第二に、PTA の活動には親子の進路勉強会、PTA 奉仕作業、三者面談、体育祭などの行事がある。第三に、学校には広報委員会が設置され、学校と地域の保護者の間で情報を共有し、気づいた情報を伝える役割を果たしている。

それではコロナ禍において、今年の学校の PTA 活動はどのように決められ、行われているのだろうか。教員 A に対するインタビューを通じて、以下のことがわかる。

PTA 活動は本部役員と学校だけではなく、保護者も含めた三者が事前に話し合い、お互いの意見を聞きながら決めている。それでは、ここ 2 年ほどの状況により、休止した学校活動が多くなっているが、これからの PTA について、教員 A とのインタビューをすることで、コロナの影響で体育祭が中止により、形態を変えて実施したことを指摘した。

それでは、学校の PTA 活動に対し、教員や保護者はどのような認識を持っているのだろうか。次節では、霞ヶ浦中学校の教員 1 名と保護者 1 名のインタビュー調査を通して、PTA 活動についてどのような認識を持っているのかを明らかにしたい。

3. 家庭・学校・地域の連携中で PTA 活動に対する認識

a) 中学校教員 B の PTA 活動に対する認識

学校の PTA 活動についてどのように認識しているかについて、教員 B が以下のように語っている。

教員 B：協力してもらおうとかというこの選定が地域をまたこういうふうを広げてくれるし、広げてくれて地域全体で学校と地域が一緒になるのがいいところです。なかなか学校が発信しても発信できるものがないので、保護者が発信します。

教員 B の話からわかるように、保護者たちは、学校行事の通知を各地域に発信して仲介する役割を果たし、学校と地域の橋渡しをしている。それでは、保護者の側は、どのような考えを持っているのか。保護者の語りを検討して、その認識を明らかにする。

b) 中学校保護者の PTA 活動に対する認識

保護者は以下のように語っている。

保護者：最近子どもたちが自転車で、家と学校を往復する道路の途中で猪が出たというのを、その保護者だけではなくて、地域の人たちからも学校側に連絡があって、それまで助けてもらう注意を促してもらったりとかしています。そういうところでは地元の方々を受け入れて、そこで生徒とその受け入れてくれた方の距離も縮まります。

ここからは、次の 2 点が見出せる。1 点目は、安全な通学環境を提供するために、保護者だけでなく、地域住民も参加していることである。つまり、生徒たちの心身の健

全な成長は、家庭、学校、地域が協力して達成していくこととされている。2点目は、生徒が職場体験の活動を通じて、学校や地域の人々との交流につながることである。

以上のインタビュー調査を通じて、PTA 活動が、家庭・学校・地域の三者が連携して、協働で実施されていることがわかる。それでは、先に述べた教員および保護者の PTA に対する認識を踏まえ、霞ヶ浦中学校の PTA 行事が具体的にどのような行われていたのか。以下、霞ヶ浦中学校における奉仕作業、三者相談を例にし、家庭・学校・地域の連携に見られる PTA の現状を検討していく。

IV. 霞ヶ浦中学校における PTA 行事の現状

1. 奉仕作業の活動

霞ヶ浦中学校の奉仕作業はどのような内容で行われているのであろうか。以下の第2表は、その活動の実施内容である。

下の表からみると、奉仕作業には、参加者が用意する道具、作業の分担場所の画定が含まれる。この中で、準備物は学校と参加者が共同で準備する。そして、分担場所を見ると、行事には学校や保護者だけでなく、学校の整備委員、運営委員も含まれる。つまり、PTA 奉仕作業は、学校と PTA 委員会が協働して行っている。

次に、協働の内実を調べるため、霞ヶ浦中学校の保護者と教員 B とのインタビュー調査の結果を確認してみたい。調査で明らかになったことをまとめると、奉仕作業の実施回数と委員の人数に関する、以下2点に整理できる。1点目は、一年間で行う奉仕作業の回数。具体的には、毎年6月の後半および9月の1週目または2週目に開催される形である。2点目は、参加する地区及び委員の人数である。参加する地区は、南地区、牛渡地区、サマー地区などの七つあり、地区毎に2名委員がいて、地区の委員の合計は14名になっている。また、奉仕作業の割り振りについて、霞ヶ浦中学校が文書の形式で通知を出して、保護者は文書に定められた用具などを準備する。つまり、霞ヶ浦中学校の奉仕作業は、学校と保護者が合意して行われる活動である。

以上、「奉仕作業の実施回数と人数」「PTA 奉仕作業の割り振り」二つの方面から、霞ヶ浦中学校の奉仕作業の内容および現状を考察してきた。まず、学校で毎年行われる奉仕作業は、草刈り(環境整備)が中心となる。次に、活動を開始する前の情報伝達を霞ヶ浦中学校が行い、PTA 委員会がそれに応じる。具体的には、奉仕作業の用具の準備、作業する地区の分担、人員や用具の配分などである。このようにして、霞ヶ浦中学校における協働は、学校が一方的に主導するのではなく、学校、PTA 運営委員会、保護者たちの連携のもとで行われている。

それでは、生徒が参加する PTA 活動にはどんなものがあるのだろうか。次節では、生徒、保護者、担当教員が参加する三者面談の活動を例にし、面談活動の中身に注目する。

第2表 奉仕作業の実施内容

◆ 日程		◆ 準備物
6:00	・態度決定 (学校長, 教頭など)	> <u>学校準備:</u> ヘッジトリマー, 刈り払い機, 草刈り機, フォーク, 熊手, 鎌, 延長コード, 脚立, テーブル, 軽トラック (1台), 発電機 (2台), 混合燃料
6:45	・学校整備委員集合	
7:00	・朝礼台前整列	> <u>参加者準備</u> ヘッジトリマー, 刈り払い機, 草刈り機, フォーク, 熊手, 鎌, 剪定ばさみ, 延長コード, スコップ, 軽トラック, 発電機
	・学校整備委員長挨拶 ・作業分担, 日程説明	
8:15	・朝礼台前整列	
	・PTA 会長挨拶	
	・学校長挨拶	
	・飲み物配付	
8:30	・解散	
◆ 分担場所		◆ 分担場所の図
生け垣	学校整備委員, 運営委員, 学校職員, ヘッジトリマーをお持ちの方	
A	ヘッジトリマー, 剪定ばさみをお持ちの方	
B	刈り払い機をお持ちの方	
C	刈り払い機をお持ちの方	
D	刈り払い機をお持ちの方	
E	ヘッジトリマー, 剪定ばさみをお持ちの方	
F	グラウンドの草刈り	

(霞ヶ浦中学校 (2021) 「第3回 PTA 運営委員会」により筆者作成)

2. 三者面談の活動

霞ヶ浦中学校では今年7月26日～7月30日の間, 三者面談を行っていた⁵⁾。参加者は, 生徒, 保護者と担任教員である。そして, 中学校の1年生, 2年生, 3年生の生徒全員が参加している。また, 面談時間は一人で20分程である。

それでは, 面談の内容はどうだったのか。保護者への聞き取り調査を通して, 以下のことがわかる。まず, 三者面談の内容についてである。具体的には, 中学校三年生に対する卒業後の進路についての話が中心になる。次に, 三者面談という活動が生徒の進路に果たす役割である。面談する際に, 保護者と担当教員が直接対面することで, 生徒の成績や進路について直接効果的なコミュニケーションを取ることができる。そして, 交流過程の中で, 生徒の意見を聞くこともできる。つまり, 三者のコミュニケーションは, 生徒の次の学業にも進路にも, 有益な推進力を発揮することができる。話し合うことで, 教員は生徒の考えや思いを確認し, 親はめざましい成長を遂げて行く生徒への対応や, 日常の交流のありようを考え直し, 親と生徒間の信頼感も深まっ

ていく。

次に、三者面談のような PTA 活動の参加者の中で、霞ヶ浦中学校の PTA 保護者の性別割合については、PTA 行事の内容によって、父親が参加するか母親が参加するかは異なっている。全体的にみれば、母親のほうが父親よりも活動の参加度が高い。

以上、奉仕作業と三者面談を例とし、霞ヶ浦中学校の PTA 行事の現状を考察した。その現状を踏まえ、以下の 2 点が考えられる。

1 点目は、学校と保護者の円滑な交流が活動を推進する上での役割についてである。中学校の PTA は、学校が主導して参加・推進するだけでなく、保護者の活動への積極的な参加や、地域住民の協力が活動を推進する役割が大きい。つまり、PTA 運営の中で、学校と保護者との円滑な交流が、PTA 活動を円滑に進めていく上で重要だと考えられる。

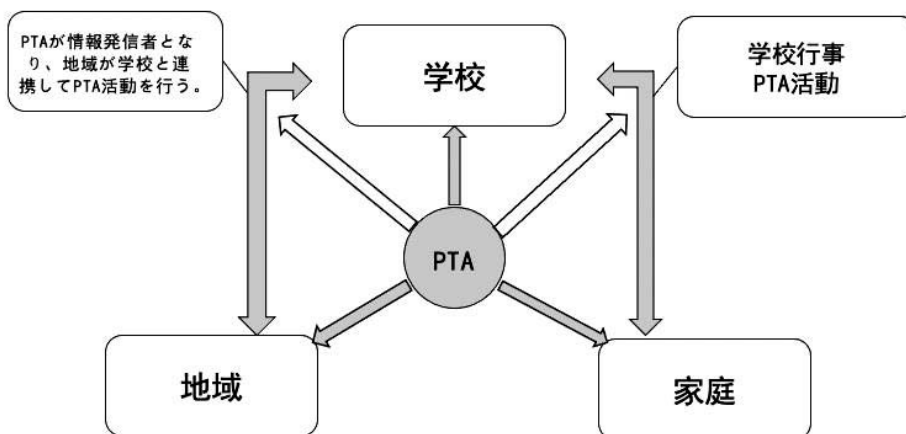
2 点目は、ジェンダーバランスについてである。霞ヶ浦中学校の PTA は、ほぼ母親が参加することがあるが、PTA 会長も、ほとんどの PTA がそうであるように、PTA 会長も男性である。このような社会の現状については、2020 年 12 月 25 日に発表された「第 5 次男女共同参画基本計画」では、PTA などの組織団体について、「組織・団体の長となる女性リーダーを増やすよう取り組む」という主張が明記している。しかし、2020 年まで内閣府男女共同参画局が調査した「自治会長及び PTA 会長に占める女性の割合」の状況を見ると、PTA 会長の女性の割合はわずか 14.8%である⁶⁾。つまり、このような現象は社会的にも注目され、改善しようとする姿が見えるが、現実は変わっていない。

また、母親側の参加が多い状況を緩和し、父親が参加しやすい「おやじの会」もつくったが、こうなると「PTA=母親の会」「おやじの会=父親の会」という棲み分けが固定化されてしまった。PTA の P は、本来、母親と父親の両方が参加することを意味することを考えると、参加のバランスが崩れることは問題であると言えよう。以上、霞ヶ浦中学校の PTA の実態や現状を明らかにした。次の章では、家庭・学校・地域との間で、PTA はどのような役割を果たしているのかを検討していく。

V. 学校と地域、学校と家庭の連携を支える PTA の役割

以上の霞ヶ浦中学校 PTA 行事の内容を考察して分かるように、PTA の行事への参加は保護者、教師間に限らず、多様な行事の中で、地域の人々が重要な役割を担っている。それでは、PTA はどのような役割を果たしているのだろうか。下の第 1 図を見てみよう。

第 1 図のように、PTA は情報を地域に発信し、地域の人びとを活動に参加させる。つまり PTA は地域と学校の間を連結し、地域の住民たちの学校との連携を助けている。また、PTA は学校と家庭の間に協力し合える関係をつくる役割も果たしている。例



第1図 PTA の役割 (筆者作成)

例えば、学校行事や PTA 活動への参加の機会を提供し、それぞれの関係者が出会う場面を実現している。

以上のように、PTA は学校と地域、学校と家庭の橋渡しの役割を果たすことで、家庭、学校、地域のつながりをより緊密にしている。その特徴として、家庭・学校・地域のつながりを確かなものとし、社会全体で生徒を支える傾向を指摘できる。どんな時代や場所であっても、PTA をともに行なうことは、生徒たちの健全な成長を協働的に支える助けになり得ると言えよう。

VI. 終わりに

本稿では、かすみがうら市立霞ヶ浦中学校に注目し、家庭・学校・地域の連携の中で PTA の実際と役割を明らかにしてきた。考察した成果は、以下の通りである。

まず、霞ヶ浦中学校の PTA 活動を例として、その活動は家庭、学校、地域の住民が協働で行っている。このように、学校や地域のさまざまな人々が交流し連携することにより、保護者と生徒に地域社会的成熟を保障し、地域の親たちや教師に守られた環境を提供して、安定した家庭の教育が可能になると思われる。

次に、現在の社会では、ますます高まる知能技術革新にさらされる人々の環境で、個人の孤立感が深まり、一人の力で対処できない問題についての不満感や無力感が生じることになる。こうした状況から、霞ヶ浦中学校 PTA 行事は生徒が親や教師と対話できる場を提供し、生徒の心身の発達を促すことができる。以上、霞ヶ浦中学校の PTA の実態を考察した結果、PTA は家庭・学校・地域のかけ橋となる役割を果たしていると言える。

また、近年では女性 PTA・母親 PTA という言葉が多くなっている。本稿で取り上げ

る霞ヶ浦中学校の PTA も、基本的には母親側が参加している。この事実は、あたかも PTA を母親の会のように感じさせる。しかし PTA の P はペアレント、つまり両親、父親と母親を表しているの、参加はあくまでも男女平等の共同参加が望ましい。

最後に、コロナの影響で、霞ヶ浦小中学校の連携 PTA 行事は中止を余儀なくされた。その様子がどのようなものかを調べることは、今後の研究課題としたい。

謝辞

本稿をまとめるにあたって、多くの方々のご協力をいただきました。貴重なお話を聞かせていただいたかすみがうら市立霞ヶ浦中学校の教職員、保護者の皆様に大変お世話になりました。この場をお借りして深く感謝を申し上げます。

注

- 1) 下表は 1948 年に PTA の組織結成率である。

学校種別全国 PTA 等組織結成率

単位 (%)

学校の類別	PTA のみ	旧来の団体	両者併存	なし
小学校	68	15	16	1
中学校	67	17	13	3
高校	43	35	16	6

(文部省 (1948) 「PTA 全国実態調査報告」により作成)

- 2) 下表は 1950 年に PTA の結成状況である。

学校種別全国 PTA 結成状況

単位 (%)

学校の類別	学校総数	PTA 数	結成率	会員数
小学校	20, 953	19, 486	93.0	10, 135, 000
中学校	12, 419	11, 053	89.0	3, 953, 000
高校	2, 600	2, 106	81.0	896, 000
計	35, 972	32, 645	87.7	14, 984, 000

(文部省 (1950) 「PTA 結成状況調査報告」により作成)

- 3) 霞ヶ浦中学校 (2021) 「令和 3 年度 霞ヶ浦中学校学校要覧」
 4) 同上
 5) 霞ヶ浦中学校 (2021) 「第 3 回 PTA 運営委員会」
 6) 2019 年に PTA 会長の女性の割合は 15% であり、2020 年に 14.8% の割合になっていた。内閣府男女共同参画局 (2021) 『男女共同参画白書 令和 3 年版』

文献

公益社団法人日本 PTA 全国協議会ホームページ：PTA の誕生

<http://www.nippon-pta.or.jp/jigyou/ayumi/rkra7f0000000g0v-att/1-1-1.pdf>
(最終閲覧日：2021 年 12 月 22 日)

佐々木保行 (1987)：『新しい PTA 学入門：親と教師の絆』, 明治図書, pp. 5-6.

中央教育審議会 (2015)：新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について (答申) (中教審 186 号)

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365761.htm
(最終閲覧日：2021 年 12 月 22 日)

内閣府男女共同参画局 (2020)：第 5 次男女共同参画基本計画～すべての女性が輝く令和の社会へ～

https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/5th/pdf/2-03.pdf
(最終閲覧日：2022 年 1 月 3 日)

内閣府男女共同参画局 (2021)：『男女共同参画白書 令和 3 年版』「自治会長及び PTA 会長に占める女性の割合の推移」

https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r03/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-04-03.html
(最終閲覧日：2022 年 1 月 3 日)

日本 PTA 創立 50 周年記念誌委員会 (1999) 『新しい時代を拓く：日本 PTA50 年の歩み』, 日本 PTA 全国協議会, p. 47.

馬場克 (2018)：地域連携を深めるための効果的なコーディネートの在り方を探る－PTA と学校の連携の充実－. 佐賀大学大学院学校教育学研究科紀要, **2**, pp. 291-296.

村山孝道 (2020)：PTA は持続可能か？ (1) ー必要論・不要論の実態を探るー. 京都文教短期大学研究紀要, **59**, pp. 13-24.